キラリ話題の人

松井 博司さん

・佐野高等学校 数学教諭
・Sanoグローカルクラブ顧問
・地域連携教員

クリエイティブで人の役に立ちたい人が育つと嬉しい！

佐野高等学校のSanoグローカルクラブとは、授業内の課題研究とは別に「地域の課題をグローバルな視点から」長期的に探究する部活動です。なぜ先生がこの活動に力を入れられているのかを伺うと、「社会で求められている力を身につけられる課題研究こそが、本来の学びだから」と語りました。佐野高校は地域の多くの方々にお世話になっていて、おかげで生徒の興味・関心を持ったことを実現できる環境があるそうです。

教員を目指したきっかけは、「教育は社会を形作る基礎である、やりがいのある仕事だ」と感じたからだそうです。「数学は論理思考の一端を鍛えるものであり、それに触れる意義と楽しさを伝えたい」という思いで生徒たちと向き合っています。

現代の授業スタイルは知識を受けるインプットが中心で、生徒も受け身の体制で、勉強を強いられているように感じているそうです。どうして学ぶのかを理解し、自ら探究心を持って、より深く学んでほしい、という思いを先生は持っています。また、佐野高校が、自ら意欲的に学ぶ生徒が集まり、主体的な学びを実践する学校として、先頭を切っていくことを目指しています。何でも「面白い」と思うのは難しいですが、「面白い」と思えることが多いと嬉しいと話しました。

最後に生徒に伝えたいことを伺うと、「クリエイティブな人間になってほしい」という言葉が返ってきました。先生が考える「クリエイティブ」とは、「面白い！」「誰かが喜ぶだろう！」と自ら発想し、行動することです。

「人の役に立つこと」と「クリエイティブであること」は、決して無関係ではありません。むしろほぼ同じと言えます。「どうすればもっと良くなるのか」を自分で考えて工夫することこそが、クリエイティブの本質だからです。自分発信で誰かの役に立つ面白さを知ることが、勉強や将来の仕事を楽しいものにする秘訣になると言います。そんな思いを胸に、先生は今日も教壇に立ちます。

（sanoteens）

▲取材を担当したsanoteensメンバーと

ようこそ 市長室からこんにちは！

先月は、市内各地で開催された運動会や文化祭、地域のお祭りなど、数多くの行事にお招きいただきました。各会場で皆さまの温かい笑顔とお会いし、活気に満ちた雰囲気を間近で感じて、私自身たくさんの元気をいただきました。

皆さまと一緒に育んできたこうした地域の魅力は、誇らしい成果にもつながっています。

このたび、大東建託の「住み続けたい街ランキング2026」において、本市が4年連続で栃木県内1位に選ばれました。「住んでいる人たちが穏やか」「災害が少なく安心して暮らせる」「都心へのアクセスが便利」といった評価をいただき、佐野市の住みやすさが改めて高く評価されたことを大変嬉しく思っております。

一方で、未来に向けた課題も明らかになっています。進学などで市外へ転出した方のうち、男性は約5分の4が本市へ戻っているのに対し、女性は都市部での就職などを理由に約5分の1にとどまっているというデータがあります。若者や女性に選ばれる街となるため、市では企業などと連携して職場の魅力を高め、地元回帰に向けた取り組みを進めております。

また、本市における昨年度の出生数は538人となり、前年度の507人から31人増加という前向きな兆しも見られます。不妊・不育症治療費助成や第2子以降の保育料・副食費無償化などの子育て支援をしっかりと継続し、将来にわたって安心して子育てができる環境づくりをさらに進めてまいります。

寒さが日ごとに深まり、体調を崩しやすい季節となりました。どうぞお体に気を付けてお過ごしください。

佐野市長
金子 裕

中心市街地を巡る
佐野まつり

10月4日㈰、朝日森天満宮（天神町）と星宮神社（大蔵町）の両社祭り「佐野まつり」が開催されました。みこしや稚児行列が中心市街地を巡り、家内安全や商売繁盛などを祈願しました。

10時ごろ、朝日森天満宮を出発した祭り行列は、星野宮神社を経由し、旧50号、市役所、佐野駅前を通り、朝日森天満宮に戻ります。

「佐野まつり」は、1876（明治9）年の佐野町の誕生以来150年続く伝統行事で、合併前は旧佐野中心街の町会が順番に25年に1度の年番町となり御仮屋（おかりや）を設営し、稚児と手古舞数十人が練り歩くにぎやかな3日間の祭りでした。現在は人口減少などを受け、開催は1日のみとなり、従来の年番町制から、25町会が祭典委員会を組織して全体で実施する体制となりました。開催時期も近年の猛暑を考慮して、これまでの7月下旬から秋に変更されました。

稚児や手古舞の参加も昔に比べ少なくなりましたが、星野宮神社のみこしは7年ぶりの宮出しで盛り上がりました。地域の人々が連綿とつないできた伝統を大切にしていきたいですね。

（市民記者　永倉文子）

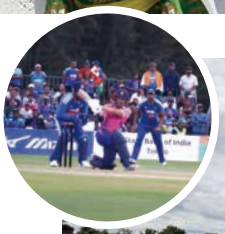
出演者による圧巻のパフォーマンス！
第37回くずう原人まつり開催

9月19日㈯・20日㈰の2日間にわたり嘉多山公園にて「第37回くずう原人まつり」が開催されました。

オープニングセレモニーは、毎年恒例の「原人火おこし」から始まり、続いて佐野東高等学校書道部の皆さんによる書道パフォーマンスで盛り上がりを見せました。

会場では火おこし体験や化石発掘体験、ふれあい動物園などが行われ、親子連れなどでにぎわいを見せていました。

原人ステージでは毎年恒例の抽選会を始め、出演者がダンスや歌などのパフォーマンスでまつりを盛り上げ、それぞれのステージでの出演者の輝きに観覧客から大きな拍手や声援があがっていました。



日印国交樹立75周年記念
スズキカップ開催

9月22日㈫・祝、佐野市国際クリケット場で、日本とインドの国交樹立75周年を記念した国際試合「スズキカップ」が開催されました。

この試合は、日印首脳会談で開催が決定したもので、男子世界ランキング1位のインド代表が日本で初めて国際試合を行いました。会場では、太鼓や日本舞踊、インド舞踊、両国の料理を楽しめるブースも設けられ、クリケットを通じて日本とインドそれぞれの文化に触れる機会となりました。

試合は接戦の末、インド代表が勝利しましたが、日本代表も世界トップレベルを相手に気迫あふれるプレーを見せ、会場では両チームの健闘をたたえる歓声が送られました。